

烏山城縄張り図



▶ Youtube

1 烏山城跡(三の丸石垣)

2 七曲口

3 車馬跡

4 常盤曲輪石垣
(攻城門跡石垣)

5 正門付近石列

6 正門付近 本丸石垣等

7 L字石列

8 平坦面礎石 高田部分法面

9 古本丸土塁断面等

烏山城は、地元では八高山(標高206m)と呼ばれる喜連川丘陵の一支脈である独立丘陵頂部を中心として築かれた、連郭式の山城です。東西に約800m、南北に約1300mの範囲に五城三郭(①本丸、②古本丸、③中城、④北城、⑤西城、⑥常盤曲輪、⑦若狭曲輪、⑧大野曲輪)と呼ばれる曲輪群が存在しています。①本丸、②古本丸と市街地との比高は約100mであり、曲輪群の周囲には塹堀、横堀、堀切、土塁などが設けられ、本丸周辺には石垣を築くなど堅固な城壁を形成しています。

万治2年(1659)、時の城主であった堀親昌によって、城の東山麓に新たな居館(⑨三の丸)が築かれました。

- ① 本丸
- ② 古本丸
- ③ 中城
- ④ 北城
- ⑤ 西城
- ⑥ 常盤曲輪
- ⑦ 若狭曲輪
- ⑧ 大野曲輪
- ⑨ 三の丸